日本看護技術学会第18回学術集会
移動動作評価班交流セッション報告書

看護大学における用具を活用した移動・移乗動作技術の教育展開

日　時：2019年9月7日（土）16時
会　場：AOSSA 8F・6F／ハピリン（福井県福井市）
参加者数：35名

○西田直子（京都先端科学大学）、水戸優子・小林由実（神奈川県立保健福祉大学）、冨田川智志（京都女子大学）、平田美和（東京医療保健大学）、若村智子（京都大学）、國澤:尚子（埼玉県立大学）

移動動作評価班では、看護基礎教育において腰痛予防指針、ノーリフトの原則を導入した移動・移送技術教育が行われているのか全国調査を行った。その結果，看護教員が腰痛予防指針を十分に理解していない，活かした技術を教授できない，また，効果的な授業構成がなされていないなどの実態が明らかになった。そこで今回は、これらの実態調査結果の概要を報告するとともに、移動動作評価班が作成した「改訂 用具を使って楽に移乗介助を！ Ｑ＆Ａ」（以下「Ｑ＆Ａ」）を用いた看護大学の移動技術の教育展開を紹介する。これらをもとに会場参加者と意見交換を行い、より効果的な移動技術教育について検討した。

対象校は、移送動作評価班のＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ大学の移動・移送技術単元である。各大学の移動・移送技術に関する時間数、講義内容、演習内容・方法について、特に「Ｑ＆Ａ」の活用方法について報告した。

西田班長からの説明

会場の様子

日本看護技術学会第18回学術集会
移動動作評価班交流セッション報告書

Ａ大学：8時間［講義4時間演習8時間］（演習は2クラス）

4時間の講義の中で一般的な移動・移送方法を教授し、用具を使用した方法についてパソコンを活用し「Ｑ＆Ａ」を紹介し、45分を掛けて体位変換・移乗・移乗の方法のデモストレーションを行い、2クラスに分け40名を体位変換、輸送車への移動、車いすの移乗の3グループに分けローテーションで行っている。

Ｂ大学：10時間〔講義6時間演習6時間〕

4時間の講義の中で一般的な移動・移送方法を教授し、用具を使用した方法をパソコンを活用し「Ｑ＆Ａ」を紹介し、45分を掛けて体位変換・移乗・移乗の方法のデモストレーションを行い、2クラスに分け40名を体位変換、輸送車への移動、車いすの移乗の3グループに分けリーテーションで行っている。

Ｃ大学：8時間[講義4時間演習8時間]（演習2クラス）

4時間の講義の中で一般的な移動・移送方法を教授し、用具を使用した方法をパソコンを活用し「Ｑ＆Ａ」を紹介し、45分を掛けて体位変換・移乗・移乗の方法のデモストレーションを行い、2クラスに分け40名を体位変換、輸送車への移動、車いすの移乗の3グループに分けリーテーションで行っている。

Ｄ大学：16時間〔講義4時間演習8時間〕

講義6時間、演習12時間で、週に6時間にわけて行っている。1回目は、体圧測定と、普段の水平移動と寝返り動作の確認とその援助方法を考える授業。2回目は、体位変換と移動・移乗／ストレッチャーの体験、移動動作に関する道具類・車椅子用の除圧クッションの説明と体験。3回目は、Q&Aのチェックリストを用いた演習を1時間、その後はリネンチェンジの演習を行っている。

本交流セッションにおいて意見交換を行い、「Ｑ＆Ａ」を活用した方法について教育的効果を上げるための方法を検討した。